

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年2月27日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691600037
法人名	社会福祉法人 豊生会
事業所名	グループホーム曾於
所在地	鹿児島県曾於市財部町南俣9番地1 (電話) 0986-72-3034
自己評価作成日	令和4年2月4日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年2月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホーム曾於は、自立・快適・安心とモットーとして、財部町の自然豊かな環境の中で、「自分らしく」「自分のペース」「快適に」「安心して」生活して頂けるように、今までの馴染みの家具や使い慣れた道具を使用して頂きながら、職員や他利用者様と少人数でゆったりとした家庭的な雰囲気の中で共同生活を送って頂いております。

・苑庭で野菜作りを行い、収穫した野菜は食事で使用し提供。天気の良い日には、ドライブや苑外へ散歩など少人数での関わりの中で安心感や信頼関係が構築され、認知症の中核症状の進行と行動・心理症状の出現が穏やかになるよう支援しています。

・看護職員を多く配置しており、経管栄養やカテーテル管理など医療依存度が高い方や、行動・心理症状が強く出現している方も受け入れています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、財部町市街地に位置し近隣には、スーパーや郵便局、道の駅、小学校などがあり幹線道路に近いので利便性も良い。道路の向かい側の空き地では毎年地域夏祭りの花火が上げられるため利用者の居室からも花火見物ができて利用者も毎年楽しみにしていた。新型コロナウイルスのため地域行事は中止されているが、管理者は消防団員として地域とつながり職務を果たしている。また、コロナ禍前は炊き出し訓練などを実施し地域と非常災害のための訓練や情報交換をおこない地域貢献の一役を担っている。

管理者や職員は、曾於市の認知症ホームの会や介護支援専門員協議会主催の研修会などに参加し、知識の研鑽や情報交換、ネットワーク作りに役立っている。認知症ホームの会は、一般市民の参加が可能なため相互の情報共有の場になっている。職員は、ICT活用による研修会への参加を積極的に実施し、サービスの質の向上に活かし自己研鑽している。

食事は、利用者の希望を踏まえ家庭的な料理を提供するよう努め、和食中心である。菜園で採れた旬の野菜や家族から差し入れされたおやつなどを楽しんでいる。能力に応じて食事の準備の手伝いがあり、包丁で下ごしらえをしたり、下膳や片付けを手伝う利用者もいる。しかし、重度化もあり、嚥下しやすいよう食事形態を工夫している。食事介助も多く利用者の各々の食事時間をずらしてケア出来るよう努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人理念は玄関・ホールに掲示している。職員は業務の中で迷った時に理念を思い出し、ケアが理念に沿っているかを判断材料の1つとして活用している。	理念は、玄関や共有スペースに掲示されており、不定期ではあるが朝礼で唱和したり、理念に沿ったケアの提供ができているか評価し、単年度の年間目標を掲げサービスの実践に取り組みサービスの質の向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の運動会へ参加やボランティアの受け入れを行っていたが、コロナ禍で地域行事の開催がなくなり、交流が少なくなっている。 地域の消防団に所属し、要請がある時には火災現場へ出動している。	管理者は、消防団員の一員として地域の防災活動にも柔軟に取り組むとともにPTA活動を通じて情報交換し、介護の質の向上に尽力している。毎年の花火は、居室から満喫しているが、地域行事は中止されているため住民との交流は少ない。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症カフェへ参加し、住民の認知症や施設に対する疑問や質問を、認知症への理解を深めてもらえるよう受け答えした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催することが出来ずに、個別で意見や要望の聞き取りを行い、サービス向上に努めている。	会議は、令和2年1月以降集合形式では開催されていないが、管理者は、会議メンバーに事前に事業所の取り組み状況などを書面にて郵送し、関係者から意見を拝聴して出された意見を参考にミーティングで話し合い、業務改善やサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ関連や加算関係について電話やメールでのやり取りを行い、市役所の担当者から指導や助言をもらうなどの協力関係を築けるように努めている。	市担当者からは、新型コロナウイルス感染禍での事業所の取り組み状況を確認され協力関係があり連携している。利用者はもとより職員のワクチン接種も万全を期し、日々の感染対策を徹底し不測の事態を、回避できるよう備えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用様が施設外に行かれる時には付き添い、納得されるまで散歩して帰苑するなど身体拘束しない方法で対応している。また、身体拘束について勉強会を行い、身体拘束しないで対応できる代替案を職員間で検討して取り組んでいる。	法人共通の指針があり、身体拘束適正化委員会、虐待防止権利擁護委員会は定期的に会議へ参加し、年2回は研修会を開催して知識や技術研鑽に向けて取り組んでいる。また、生活リズムを把握し移動の安全性や排泄の自立支援などに取り組めるよう人感センサーを活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について勉強会を行い、職員がお互いに注意し合える環境を作り、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修に参加し、研修資料については職員全員が閲覧できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約については、入所時に不安なくご理解して頂けるように、ご利用者様・ご家族様が納得されるまで不足のない説明を心掛けています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様はコロナ禍の面会制限にて電話でのやり取りが多くなっているが、事あるごとに近況報告を行い、ケアの方向性や相談を話し合っている。運営推進会議の意見聴取を行い、率直なご意見やご要望を伺っている。</p>	<p>家族には、電話やメールなどで介護の状況などを説明しているが、今後は、スマートフォンのLINEを活用して利用者とビデオ面会し、より安心していただけるよう検討している。家族との関係性はよく、忌憚なく意見や要望などが出せるよう関係構築に努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月ミーティングを開催し、日々の申し送りで言えない意見や考えを聞く機会を設け、玄関には職員用の意見箱を設置している。多くの職員は個別に管理者へ報告・相談して、意見交換をしている。</p>	<p>管理者は職員と必要に応じて随時面談をおこなうとともに、申し送り時やミーティングなどで意見交換をしている。職員関係も良好にて離職率も低い、調理専任者がおり、他の職員は介護に専念し、働きやすい職場環境であり、資格取得についても法人のバックアップがあり質の向上に努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員個人の自己研鑽や勤務状況を把握して、勤務希望や有給取得は可能な限り調整して、各個人のモチベーションが維持できるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	各個人の技量を把握し、必要な研修や本人が希望する研修には参加できるよう調整している。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	曾於市の認知症ホームの会やケアマネ協議会へ参加し、研修会や研修調整などの機会に情報交換やネットワーク作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話や声掛けの返答・反応から意向や要望を聴取・推察した内容とご家族様からの情報提供を基にご利用者様が安心して頂ける関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前よりご利用者様の状態や困りごとの確認を行い、施設入所の不安軽減や入所後の要望について伺い、ご利用者様を安心して預けて頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前よりご利用者様の状態や困りごとの確認を行い、在宅での支援方法や入所の必要性について話し合いを行っている。また、必要に応じて他サービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の残存機能や生活歴を把握して、無理のない範囲で軽作業への参加や本人様の話を伺い、職員もご利用者様から学ぶ姿勢を持ち、ご利用者様が介護されるだけの立場にならない関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にて面会制限を行っているが、毎月の手紙に本人様の状況報告を行い、本人様の要望がある時にはご家族様へ電話をするなど関係が維持できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて面会制限を行っているが、本人様の要望がある時には電話をして頂くなどご家族様の協力を得て、関係が希薄にならないよう努めている。	窓越の面会も憂慮している状況下であるため、電話の取次ぎや葉書などの代読、差し入れを頂戴するなどして関係継続に努めている。感染症以前は、面会者も多く居室や共有スペースにてゆっくりとくつろいでいただくなど配慮していた。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用様同士の関係性を把握して、ソーシャルディスタンスを保ちながらもご利用者様同士が関わり合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院にて契約終了後も転院や他施設入所時にはご家族様に確認後、必要な情報提供を行っている。また、亡くなられた場合もご家族様と連絡を取り合い、必要な支援や相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や声掛けの返答・反応から意向や要望を聴取・推察し、本人様の思いや意向に寄り添ったケアや支援を検討している。	認知症の進行や重度化して意思表示が難しい方もおられ、本人の表情やしぐさ、視線などから本人の思いに触れ汲み取るよう支援している。利用者ごとに担当職員がおり、職員全員で思いや意向を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様との会話や入所前に利用していたサービス事業所からの情報提供などから、これまでの本人様の暮らしを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の心身の状態確認を行い、残存機能を活かして本人様のペースで過ごせるように努めている。また、職員間で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画やモニタリングはコロナ禍にて個別に行っているが、本人様・ご家族様・職員・主治医それぞれの意見を聴取し、本人様の意向に沿った計画を作成できるように努めている。	職員は、利用者と寄り添い、暮らしの中で本人のしたい事や望むことを把握しユニット会議で話し合い、短期目標の更新時期には、家族に計画の進捗状況やモニタリング結果を説明している。更新時は、介護計画書を家族に郵送したり、面談にて説明し同意をもらっている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別のケア記録に記入し、申し送りやミーティング内で職員間の情報共有をしている。その内容を支援経過に残し、介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の状況や状態に応じて、柔軟に必要な支援に対応することで既存のサービスに捉われないサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて地域資源と協働することが難しくあるが、地域資源の把握は常に行い、必要や状況に応じて協働できるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医として事業所と信頼関係の構築に努め、必要時に適切な医療を受け入れられるように支援している。かかりつけ医は本人様及びご家族様の希望を尊重しており、協力医療機関以外をかかりつけ医としている方もいる。	入居前からの医療機関受診希望の利用者は、家族の協力を得て受診をしているが、協力医療機関の場合は、主に看護職員が通院介助を支援している。訪問歯科診療の往診があり、調剤薬局にて内服薬を受けとり看護師が仕分けしている。事業所は、看護職が多く医療ニーズの高い利用者の対応にも柔軟に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は関わりの中での情報や気づき・異変を看護師に報告・相談して、ご利用様が適切な看護・処置・医療機関の受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時はケアマネが入院先の看護師やソーシャルワーカーと連携して、安心して治療が受けられて早期に退院できるように努めている。コロナ禍にて医療機関側より面会を制限されている為、定期的に電話連絡を行い情報交換や相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所で出来る範囲の支援を本人様やご家族様へ説明し、終末期の意向確認を行い、状態変化時には、その都度意向の再確認、医療機関へ相談することで、方向性や支援方法の情報共有が行えて、チームでの支援に取り組んでいる。	「看取りに関する指針」があり、契約時に書面にて意思確認をおこなっている。重度化が進み医療ニーズも高い利用者が多いため、医療職を中心に早い段階から話し合い本人、家族の意向に沿い納得のいく最期が迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備えて、応急処置や初期対応の勉強会や訓練を定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練は実際に通報から避難終了まで一連の流れを行い、消防署へ報告し、指導や助言を頂いている。管理者が地域の消防団に所属し、避難時の協力体制を構築している。</p>	<p>法人や地域の消防団との協力体制があり、消防署との連携の元、避難訓練を実施している。近隣河川の氾濫を予測した避難訓練の実施、避難場所での必要物品の準備をおこない、非常災害時の備蓄をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様の生活歴や性格を、本人様やご家族様からの情報を基に把握し、本人様の誇りや自尊心を傷つけない関わりを心がけ、知り得た情報を職員間の共有に留め、個人のプライバシー侵害にならないように努めている。	職員同士の引継ぎ時も利用者に情報が漏れないよう配慮し、別室で着座して会話するなど工夫している。利用者は概ね方言で会話されるが、失礼のないよう会話し人格や尊厳に配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で声掛けや反応、本人様の行動から確認・推察して本人様の思いや意向を表出し決定出来るように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースを大切に、希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	コロナ禍にて利用者様の馴染みの美容室へ行ったり出来なくなったが、職員のボランティアにて散髪しており、利用者様は納得され喜ばれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苑庭で採れた野菜や購入した野菜と一緒に下拵えしたり、本人様の嗜好や咀嚼・嚥下状態に合わせた形態で提供し、職員も一緒に食べるなど孤立感なく、楽しい雰囲気の中で食事できるように努めている。また、無理のない範囲で下膳や片付けを職員と一緒にやっている。	調理専任の職員が配置されており、家庭的な食事を提供しよう努めている。利用者は、包丁を使い下拵えをしたり、片付け、下膳の手伝いがある。行事食や季節が感じられるよう調理を工夫しており、菜園の野菜や家族などからの差し入れを調理に活用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の状態・習慣に合わせて食事内容・食事形態、提供量を調整しており、1日を通して必要量を摂取してもらえるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各個人の状態に合わせた道具を使用して、声掛けや介助にて行っている。毎晩義歯洗浄剤を使用して洗浄して口臭予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、定期的に声掛けや介助にてトイレでの排泄を促し、パッド使用の軽減に努めている。	全居室にトイレが配置されており、手すりが設置されている。プライバシーに配慮し排泄の自立支援をおこない、トイレ誘導やパッド交換などをおこない清潔保持をしている。また、運動や食事などに配慮し、便秘予防、排便習慣を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、申し送り時に職員間で情報共有して十分な水分摂取や繊維質の食事摂取を促し、運動や腹部マッサージを行い、トイレでの自然排便を目指しているが、便秘時に指示に従い、必要に応じて緩下剤の投薬を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個人の状態や希望、タイミングに合わせて入浴して頂いているが、嫌がられる時は時間をずらしたり、職員を代えて声掛けするなど工夫して支援している。	概ね週3回程度、午前に入浴してもらっているが、利用者の希望や必要に応じて入浴支援をおこなっている。入浴剤の活用があり、入浴を楽しむにされている利用者も多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の状態や習慣に合わせて休んで頂いている。また、食後など状況に応じて体位の調整を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状を各個人のファイルに保管して、職員が必要時にいつでも閲覧できるようにしている。また、処方内容に変更や追加・中止があった場合は申し送りやノートを活用し情報共有をして異常や変化の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の状態や残存機能に応じて、苑庭の草刈りや園芸、調理の下拵えなど各個人の経験や知識を活かして、気分転換や楽しみ、獲得役割が得られるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて従来のように外出は行えていないが、利用者様の希望にてドライブなどの外出を支援しており、気分転換やストレス発散になるよう努めている。	コロナ禍で行事計画通り外出が実施できていない実情があるが、職員は感染予防を徹底し、季節ごとの花見見物にはドライブがてら出かけている。地域行事も中止になり地域への外出は減っているが、敷地内の日常的な車いす散歩を励行している。また、定期医療受診を兼ねて、行きつけの店に散髪に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者様の数名は少額の現金を所持して、安心感や満足感を得られている。職員は本人様の希望時に使用できるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様の希望時や不安時に、ご家族様や知人・友人へ電話連絡を行っている。FAXで連絡するご家族様がいる為、必要に応じてFAXを活用しやり取りを支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>行事の写真や作成物を掲示して季節感を感じてもらえるようにしている。また、天気や日没などに合わせて照明を調整し、コロナ禍にて適宜換気を行う為、室温・湿度の調整に配慮している。天気の良い日は日光浴など行っている。</p>	<p>共有スペースは、テーブルとイスが整然と並べられ感染対策にも配慮し、重度化もあり車いすの方が多くソファは撤去されている。畳スペースもある。十分な採光があり明るく広々としており対面キッチンである。壁には、利用者の作品や季節を感じさせる装飾が施され家庭的な雰囲気である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>コロナ禍という事もあり、ソーシャルディスタンスを保ちながらも、他者との関わりが維持できるように座席の配置を考慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人様・ご家族様には、馴染みのある物や好みの物を施設内に持ち込み使用することは本人様が安心を得られ落ち着きへと繋がることを説明して、可能な限り本人様が居心地の良い環境作りに努めている。</p>	<p>利用者の希望で居室から共有スペースが見えるようベッドの配置を工夫している方があり、全盲の方は、自由に居室で過ごしていただけるようベッドや家具などの配置を工夫している。洗面台やトイレが設置しており、フローリングや畳仕様の居室である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人様の残存機能や状態を把握して、出来ることが継続して行えるように、分かることを伝えるように工夫して自身のペースで過ごせるように支援している。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない